

瀬戸毘沙門天

27号

平成19年7月
瀬戸毘沙門天王

夏祭り
七月二十八日(土)

夏祭り

七月二十八日(土曜日)

瀬戸毘沙門天王、御降臨五十一年を迎えての、

夏祭りです。昨年より境内の整備をしてきました。草を一本ずつ抜きながら気づかしていただきました。一本ずつなら抜けますが、まとめて抜くことは困難です。何事も「一」から「一」ということだと思えました。「チリも積もれば山となる」という諺がありますが、本当にそうだなということを実感しました。真理は一つだと思えました。どんなに複雑なことも真理は一つです。あわてないうで単純に整理することが大切だと思えました。

四月からベトナムを訪問しています。アジアの子どもたちの問題を考え、そして岡山に子どもたちを呼び、日本の子どもたちとアジア諸国の子どもたちが手をつないで音楽をつうじて「心」を一つにして、平和のために汗をかく子どもにも成長してほしいと願うことです。

「音楽は心を救う」



二十四回目の

夏祭り

昭和五十八年の夏に始まりました。長島病院の現在北館の場所に舞台を組み、「健康の夕べ」として始まりました。

第三回から、現在の本堂の下の元のゲートボール場で舞台を組み、島根県から「石見神楽」を呼び、盛大に夏祭りが行われました。その後、境内地で行い現代に続いていきます。何時のときからか忘れましたが、花火を打ち上げるようになりました。目の前、頭の上での花火は迫力があり、皆様にしたのしんで頂いてきています。近くにお住まいの方には「迷惑をおかけしています。この場を借りて陳謝。」

貧困からの

脱出

ベトナムへはじめて行った時、思いました。日本の企業が進出して、多くのベトナムの人が働いていました。賃金は日本と比べて大変安いですが、働く場所があることが、現地の人たちにとってすばらしいことだと思えました。彼らはその賃金で家庭を助けています。

長年、フィリピンに行っています。そこで、経験することはあまり変わらないというのが実情です。たとえば、スモークマウンテンの跡地などを有効に利用して働ける場を創設できれば、少しでも生活が楽になるのでは思います。

又、劣悪な環境に対しても、一緒に取り上げ総合的に出来ればと願っています。「アジアの平和と繁栄」のためわれわれが何が出来るかということ真剣に考えています。

マラボン市等は、雨季になると町全体が水びたしになります。水の中に伝染病の菌がうようよしています。サズが発生すれば世界的に経済に大打撃を受けます。もっと真剣に環境問題を考え街造りに取り組みたいと思います。

